

令和 8 年度第 2 回鉏路市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時	令和 8 年 7 月 17 日（金）14:00～15:00
場所	K K S コンベンションセンター 3 階 研修室 1 ～ 3
出席委員	22 名（うち代理出席 3 名） 欠席 12 名
事務局	7 名（委託事業者 3 名含む）
オブザーバー	1 名 欠席 1 名

1 開会

2 議事

【報告事項】

- （１）令和 8 年度第 1 回鉏路市地域公共交通活性化協議会専門部会の開催結果について 資料 1

- ① 地域公共交通計画の考え方について 資料 2 資料 3

・事務局より説明

～質疑なし～

- ② 路線バス利用者の需要予測及び再編の考え方について 資料 4

・事務局より説明

～質疑あり～

（原委員）

- 資料 4 の 5 ページ目の右側に地図が出ていていると思います。鉏路町のイオン鉏路店のバス停は多くの利用があることがわかると思います。くしろバスの路線バスの形態として、イオン鉏路店への需要が非常に高い状態にあることが、過去から続いている状態なので、この需要予測をする際に、この辺も少し考慮していただければと思います。

（事務局）

- 人流データ（KDDI の位置情報のデータ）で検討を進めていますが、イオン鉏路店の需要は昨年度から算定しています。今回は、鉏路市内を対象とした路線バスの計画ではありますが、イオン鉏路店は非常に重要なところですので、ここを含めて予測を実施しており、今後もこのような重要な需要を考慮した形で検討を進めていきます。

(宮下委員)

- これまでの協議会でもゾーンバス化の話は出ておりましたが、今回かなり重点的に議論されている印象を受けました。理論としては非常にきれいな考え方だと思います。しかし、高齢者にとって乗り換えが負担になること、冬期間の移動負担、タイムロスの発生なども十分考慮する必要があると思います。
- 私は普段からバスを利用していますが、市内は大都市圏のような激しい渋滞があるわけではありません。従来からバス事業者が減便を重ねながら運行を維持してきた経緯もあります。そうした中で乗り換えを前提とした仕組みを導入するのであれば、利用者の利便性や事業者経営の両面から慎重な検討が必要だと思います。
- また、公共交通全体を考えるのであれば、単に再編するだけではなく、利用者をどのように増やしていくかという視点も重要だと思います。

(事務局)

- 人口減少が進む中で利用者を増やすことは大きな課題です。現在の釧路市では自家用車への依存度が非常に高くなっています。そのため、通勤時に一部区間だけでもバスを利用する、飲み会などの際に往路をバス利用する、買い物でバスを利用するといった形で、普段バスを利用しない方にも利用していただく取り組みが必要と考えております。人口が減少する中で利用者数を維持・増加させるためには、新たな需要の掘り起こしも必要です。今後も利用促進策について検討を進めてまいります。
- また、ゾーンバスについては、専門部会では釧路町の事例も紹介されました。路線バスとデマンド交通を組み合わせながら役割分担を行い、効率的な運行を実現している事例です。そのような先進事例も参考にしながら、今後の検討を進めてまいりたいと考えております。

(菅野会長)

- おっしゃるとおり、何でもゾーンバス化すれば良いという話ではありません。どの路線で、どのような方法が効果的なのかは需要予測や実証を踏まえながら慎重に判断していく必要があります。また、利用者の利便性を損なっては意味がありませんので、その点も十分考慮しながら議論していきたいと思います。
- 今ある路線をすべて増加することではなく、まず需要予測を含めた上で、その分の余剰能力を支線の方に導入していくことで効率化も図られる。そういったことを今後も専門部会で議論していただき、検討していきたいと思います。

(菅野会長)

- 町域をまたいだ時に、それぞれお互いに公共交通計画を持っている中で、ゾーンバス化という定義はどう考えたら良いのか、運輸支局様からアドバイスをいただけるとありがたい。

(佐藤委員)

- 生活圏が重なっているところは一部だけだと思うので、釧路市と釧路町で一つの計画を作る方法もありますが、それぞれ釧路市でも釧路町でも計画を持っているので、両方の計画で同じような形で位置付けていくやり方があると思う。

(菅野会長)

- 今後の協議にもよりますが、朝晩の通学通勤は別として、イオン釧路店やイオン昭和店、アークスも含めて、病院や買い物がバス利用の主目的になりますので、朝晩の通学路線と日中路線を分ける議論も必要になってくる。学生も含めてゾーンバス化が良いのかとか様々な議論をしていきたいと思っています。

(森委員)

- 専門部会では、将来的に人口減少が進行した場合、イオン昭和店、スーパーアークス周辺、釧路駅、市立病院、桜ヶ岡といった幹線部分だけが残し、支線部分のサービスが衰退してしまうのではないかと話も出ておりました。図面上ではきれいに整理できますが、実際の利用者の立場から見ると、利便性が低下する可能性があります。また、バス事業者の収支についても十分考慮する必要があります。路線再編によって利用者が減少すれば、結果として収益の低下につながる可能性もあります。そのため、利用者数の変化、収支への影響、実証実験の必要性などを十分検討した上で進めるべきであると思います。
- 高齢者利用について申し上げます。高齢者の多くは、「多少距離が長くても、一度乗ったら目的地まで行きたい」という意識を持っています。そこに1回、2回の乗継ぎが発生すると、それ自体が大きな負担になります。また、運賃についても、例えば現在300円程度で行ける区間が、乗り継ぎによって750円になれば、さらにバス離れが進むことも懸念されます。そのため、乗り継ぎ負担、運賃負担については十分配慮していただきたいと思います。
- 17年前にバスから釧路の街を考える会が発足した時に、9月20日のバスの日にイベントやらないかと色々ご提案させていただいて、少しずつバス事業者の皆様も様々なイベントを実施されています。ぜひ協議会委員の皆様にも実際に足を運んでいただき、バス利用促進の取り組みをご覧いただければと思います。私も新規の路線ができた時は必ず行くようにしているのですが、そういった積み重ねが「たまにはバスを使ってみよう」という意識につながっていると思っています。

(菅野会長)

- ありがとうございます。需要予測やサービスレベルの検討とか、こういった段階で、路線としての収支のシミュレーションのようなものはあると理解してもいいですか？

(事務局)

- 最終的には収支も試算します。アンケートにて、乗換抵抗とか、乗換時の料金が、どれくらいが妥当かといったこと、利用継続意向も聞いたりします。需要予測は、こういったアンケートによって意見をいただきながらできる限り実態に近い形で進めます。

(菅野会長)

- 机上の計画だけではなく、実際に利用者に受け入れられる仕組みでなければ意味がありません。計画を策定してから翌年度から一気に実施するという話ではなく、この計画期間の中で十分検討を重ねていく必要があると考えております。

(奥村委員代理)

- 釧路市と釧路町をまたぐ路線については、北海道の広域公共交通計画の対象路線として位置付けております。今後、ゾーンバス化の検討をしていくのであれば、北海道の計画で見ていくことも考えられると思いました。対象路線ごとに分科会を設置して個別協議を行っていますので、釧路市、釧路町を含めた関係自治体だけの分科会を作って検討していくことも考えられると思いました。北海道の公共交通計画についても再来年度に更新・策定が予定されていますので、釧路市や釧路町からも、ご意見などをいただければ、北海道の取り組み方の中でも位置付けていくことも可能と思いました。今後ともご協力させていただければと思っております。

(菅野会長)

- ありがとうございます。おっしゃるとおり、これから広域交通の路線ごとに様々な問題が出てくるとしますので、北海道とも協力しながら検討を進めていきたいと考えております。

③ アンケート調査の実施について

資料 2

参考 1

参考 2

・事務局より説明

～質疑あり～

(菅野会長)

- ゾーン化の話でいえば、参考 1 の 3 ページ目に、具体的な路線名が例示として出ていますが、これは、第二若草団地から釧路駅前までが一本でありました。これを市立病院の乗換拠点で、幹線と支線に分けます。幹線に余剰があれば、支線のダイヤの便数を増やすとともに、乗換拠点で他の支線系もアクセスして乗客が増えるだろうという見方をしたら良いということでしょうか。

(事務局)

- その通りです。アンケート調査法は、系統ごとに聞くことを考え、それぞれバスの中で調査票をお渡しするときに、系統にあった地図をつける形で配布することを考えています。

(菅野会長)

- これはもう少し専門部会で揉むのか。それとも、これが完成だということでしょうか。

(事務局)

- まだ専門部会の委員の方々から意見をいただいている段階になります。

(原委員)

- 参考 1 の 3 ページ目の下から 2 番目に、「バスの乗換を行うことで初乗りが 2 回発生する」ところで、増額の選択肢だけがありますが、「増えない方が良い」という選択肢は設けないのでしょうか。

(事務局)

- 乗り継ぎの運賃のあり方は、今、阿寒バスさんがイオン昭和店で乗継を行っているケースがあり、乗継券を使って料金の負担を抑えるという手法で実施しています。手法としては、必ずしも運賃が増えるだけではなくて増えない選択肢も、やり方によってはあり得ると考えていますので、選択肢の一つとして「増額をしない」というものを追加することも可能性としてはあると考えています。

(菅野会長)

- この選択肢を追加することで、みなさん増額の選択肢を選ばないという問題もあると思いますが、そのあたりはどうなんでしょうか。

(事務局)

- 選択肢として「増額を望まない」を設けることは可能です。ただし、この選択肢を設けると、多くの回答者がその選択肢を選ぶ可能性があります。その結果、本来確認したい「どの程度の負担増であれば受け入れられるか」という分析が難しくなる懸念があります。

(菅野会長)

- そうだとするならば、答えの選択肢というよりは、「取り組み内容によっては運賃の低廉化ということも考えられます」と、設問文に追加しておくのが良いのではないのでしょうか。単純に運賃が上がるイメージをインプットして答えてもらうのは問題があると思います。
- 設問が長くなってもいいので、「実施する際には、そのようなことも十分検討していきます」のようなことが入っていれば、「このぐらいまでだったら増額してもいいですよ」のような答えがもらえると思います。

3 開会

(菅野会長)

- 以上をもちまして、「令和8年度第2回釧路市地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。

以上